

# CO・OP

## 京都の生協

2020/January/No. 100  
京都府生活協同組合連合会



カツドウ屋が躍動した歴史を伝えたい  
——「映画のまち 京都」のこれまでとこれから——

### TalkTalk トークとーく

●映 画 監 督 中 島 貞 夫さん  
●京都府生活協同組合連合会 会長理事 上 掛 利 博

# 対談

## TalkTalk トークとーく



### カツドウ屋が躍動した歴史を伝えたい

——「映画のまち 京都」のこれまでとこれから——

映 画 監 督

中 島 貞 夫 さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事  
(京都府立大学公共政策学部教授)

上 掛 利 博

早朝、太秦うずまさに近い三条通りをマイクロバスが通り過ぎ、バスの中にはちよんまげを結った人の姿が見えます。時代劇のロケに向かうバスなのでしょう。こんな時、映画

は京都の地場産業なのだ実感します。その京都で映画づくりの一线に立ってこれた中島貞夫監督に、「京都の生協」100号記念ということでお話を伺いました。

### 映画のクレジットタイトルにも時代の変化が

**上掛** 私は京都府生協連の会長理事を引き受けてから、映画館で映画を観る回数が増え、多い年は200本近く観ています。あいさつをする機会が多くなったので、映画の話に触れて、聞いて良かったと思っただけのあいさつにしたいと考えてのことです。

**中島** ほう、それはすごいです。いまどきはビデオで観る方が多いから、映画館でそんなに

観る方は珍しいですね。ほくも高校時代は年に110本ぐらい観たことがあります、授業をさぼってね(笑)。

**上掛** 映画から学べることは多いので、大学の講義の中で学生たちにも薦めています。エンドロールでたくさんの名前が流れるのを見るたび、映画はこんなにも大勢の人が関わって完成するものなのかと感動を覚えます。

**中島** 最近では製作に参加した人の名前をもれなく出すようになりましたね。エンドロールが長くなった分、バックに流れる音楽も完全に作るようになりまし。昔はクレジットタイトルに名前を出す人を極力削りましたから、せいぜい30人程度でしたし、いまのようにエンディングではなく映画の始めのほうで流したものです。

のです。

#### C/O/N/T/E/N/T/S

##### トークとーく対談

カツドウ屋が躍動した歴史を伝えたい。

——「映画のまち 京都」のこれまでとこれから—— 2

台風19号への対応	7
京都府総合防災訓練	7
2019年度 関西広域応援訓練(図上訓練)に参加	7
MCA無線(防災無線)訓練を実施	7
コープ御所南ビルで防災訓練	7
2019年度京都府消費者問題セミナー「うまい話には裏がある!~広告・表示の落とし穴について考えよう PART II~」開催	8
2019年度京都府食の安心・安全意見交換会	8
「ヒバクシャ署名京都の会」交流会	9

「ヒバクシャ署名京都の会」街頭宣伝署名	9
京都大学生協 無人店舗・セルフレジ見学	9
第19回 京都府協同組合役員体験・交流学校	9

##### TOPICS

●第31回近畿地区生協・行政合同会議	10
●2019年度 近畿農政局 消費者団体等との意見交換会及び工場見学	10
●京都府府民環境部との懇談会	10
●2019年度産直フォーラム in 京都	11
●食品に関するリスクコミュニケーション「これまでを知り、これからを考える~食品中の放射性物質~」	11
●京都環境フェスティバル2019	11

●京都の生協 理事長懇談会	12
●京都府生協連 理事・監事研修会	12
●京都労働者福祉協議会代表者会議	12
●老いる前の整理はじめます転ばぬ先の講演会	12

京都府生協連 第31回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	13
京都の生協活動功労者表彰式	13
京都府生協連 第32回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	14
おもな行事のお知らせ	14
年賀状	14



## 東大『ギリ研』から活力に満ちた東映へ



映画監督  
中島貞夫さん



京都府生活協同組合連合会 会長理事  
（京都府立大学公共政策学部教授）  
上掛利博

東映を受けたら、受かっちゃたわけです。

その頃は、予算どおりにできた映画は一本もない時代で、製作期日もよく遅れていました。ところが、社長の大川博さんは、戦前は鉄道省の官吏で、五島慶太さんに請われて東急電鉄に入り、そこからまた五島さんの命を受けて東映に来た人ですから、映画のことはまったく知らないし、期限内に予算内で映画をつくりあげるべしという「予算主義」を打ち出したんです。

でも、アニメーションを企業として初めて手がけた方でもあり、赤字を出しながら映画部門を維持し続けたあたりは「ただ者」ではないなと思います。ほくは、大川さんから「クビ！」と言われたり褒められたりして、「両方したのは、おまえだけだ」と言われました。

**上掛** 最近『古代ギリシア遙かな呼び声にひかれて』（論創社、2019年）を読んで驚きました。ノルウェー大使館などで何度か一緒にたイブセン研究の毛利三彌先生の編で「東京大学ギリシア悲劇研究会」（ギリ研）の歩みをまとめた本です。その中で中島監督が「仲間の信頼を一身に集めて、何ごとにも揺るがず堂々と演出した」と紹介されています。「北の国から」の倉本聰さんと第一回公演「オイディプス王」の台本を、監督は書かれたそうです。

**中島** 倉本とは大学の同期で、半年近く夢中で取り組みました。でも、高邁な気持ちは全然なくて、「誰もやっていないことをやりたい」とか「ギリシア悲劇は得体の知れない怪物だから、とにかく挑戦してみよう」という感じです。

本当に公演できるとは思っていません。当日まで「たぶん大赤字だから、夏休み返上で

アルバイトをしよう」と仲間と話していたのですが、大手の新聞が書いてくれたおかげで、日比谷野外音楽堂での公演は意外に盛況でした。

**上掛** ギリシア悲劇の研究から映画の世界に進まれたのはどうしてでしょうか。

**中島** それはじつに単純で、大学卒業後の選択肢といえば、1つは研究室に残ること、2つめはシナリオライター、3つめは映画界、この3つだったんです。大学に残るように誘われましたが、自分は現場人間のほうが近いだろうと思ったし、その頃は日本の映画界が全盛期で、年間観客動員数も最も多い頃でしたから、日本のうるさい監督たちもわ

りあい自由に創れる時代でした。それで「映画もおもしろいんじゃないか」と思ったのが、道を誤った始まりです（笑）。

**上掛** 当時は松竹・東宝・大映・日活があつて、監督が入られた東映は後発でした。

**中島** たしかに東映は後発でしたが、その頃になると観客動員数は他社に比べて一番多かったです。京都には内田吐夢、東京には今井正など、本当にうるさい監督が東西にいて、ものすごい活力が感じられました。それに、東宝や松竹は会社ができあがっているというか、妙に収まってしまっている気がして、ほくは収まっているところはあまり好きではなかったんですね。それで

## 牧野省三・マキノ雅弘との出会い

**上掛** かつての東映は、片岡千恵蔵、市川右太衛門の両御

大、中村錦之助（萬屋錦之介）、

大川橋蔵といった歌舞伎役者

や、新国劇の大友柳太朗、歌手の美空ひばりなど、スター

を起用する「スター主義」をとっていました。

**中島** 企画部のボードには、



予定作品として俳優の名前、たとえば「市川右太衛門物」と書いてあるんですよ(笑)。まずスターを真ん中に据えてプログラムを組むわけです。**上掛** ところで、「日本映画の父」と呼ばれている牧野省三さんですが、監督はその「孫弟子」にあたられるとか。**中島** なぜ「孫弟子」かというと、ぼくが東映に入社し、正式に助監督として付いたのが「マキノの親父(マキノ雅弘監督)」つまり牧野省三の長男で、彼から省三の話をよ

## 旋風をまきおこした 映画「くノ一忍法」

く聴かされたんです。「マキノの親父」は、仕事が終わると毎日のように昔話をしてくれるのですが、なにしろ彼は省三が日本初の劇映画「本能寺合戦」を撮った年に生まれているし、松竹でも東宝でも日活でも働いたことがあるし、役者は全員顔見知りですから、省三の話から始ま

って、片岡千恵蔵や市川右太衛門の話を「千恵さんがなあ……」「右太やんが……」と話すわけです。最初は「得体の知れない、不思議なおっさんだな」と思いましたが、そのうちだんだん興味が湧いてきて、自分からしつこく彼の話を聴くようになりました。よく考えると、あのととき聴

いた話は京都の映画史の中核部分なんです。なおかつ、父親である省三との本当につらかったやり取りを話す時、涙を流していました。マキノ雅弘ほどの人物に涙を流させるというのは、それだけ父親の存在が残っていたわけ、やっぱり牧野省三は大きな人だったんだと思います。

やるならイヤイヤやっても仕方がないから、なんとか工夫できないだろうか考えたのは事実です。岡田所長から「新しい企画を出せ」と迫られた時、映画にする気は全然なく、半ばジョークで提案したのが「くノ一」でした。所長は頭ごなしに「そんなもん、映画になるか!」と一喝しましたが、

のものではだめだから、若手の意見に耳を傾けようという雰囲気が出てきて、とくに当時の撮影所長だった岡田茂さんは、ぼくに「文句ばかり言っていないで、何か新しい企画を出せよ」と迫るわけです。

その後、彼なりにリサーチを始めたらしく、しばらくして「あれ、おもしろそうじゃないか。とにかくホン(脚本)にしろ」と言い、次には「あん

**上掛** 日本映画の全盛期は1958年頃で、入場者数が1億人を超えていたのが、皇太子のご成婚パレードを機に白黒テレビが日本中に広まり、さらに1964年の東京オリンピックでカラーテレビが普及、この頃には映画館の入場者数は激減しました。映画界

具隆監督が中村錦之助主演で「親鸞」を撮られる時に付いたのが非常に大きかったですね。映画の作り方の理論的な部分を学べたし、「脚本を書きなさい」と言われて、どんな書くようになりました。

その頃、テレビ映画が出てきて、30分の連続物が製作されるようになり、ぼくらのような安く書けるシナリオライターが求められていたので、

社としての、観客がどんどん減るのがわかるし、従来

他社のテレビ映画のシナリオをペンネームで書くという実戦的な参加の機会もわりあい早くからありました。

「健全娯楽」路線に対するアンチテーゼとしてのエロと暴力なんです。でも、本当に新しい路線をやるかどうかの瀬戸際まで追い込まれていたし、

「くノ一忍法」を撮ることになったのですか? 「明るく楽しい」東映映画が「くノ一忍法」シリーズと任侠物という新路線を打ち出して、週刊誌が「エロと暴力を描く、東大出の監督」というふうに取り上げたそうですが……。

そうなるかとジタバタしてもしょうがないから、倉本に「おい、助けてくれ。京都へ10日ほど来てくれ」と電話して、彼はちょうど日活でシナリオを書き始めた頃でしたが、2人で「くノ一」の脚本を完成させたわけです。

ぼく自身は、1年目は無我夢中でしたが、2年目に田坂

中島 客が入らなくなることは、もう誰の目にも明らかでした。

上掛 女優さんのキャスティングでもご苦労があったとか。

中島 客が入らなくなることは、もう誰の目にも明らかでした。

上掛 女優さんのキャスティングでもご苦労があったとか。

中島 客が入らなくなることは、もう誰の目にも明らかでした。

上掛 女優さんのキャスティングでもご苦労があったとか。

中島 客が入らなくなることは、もう誰の目にも明らかでした。

上掛 女優さんのキャスティングでもご苦労があったとか。



野川由美子さん、中原早苗さん、芳村真理さんはトントンと決まったけど、肝心の色っぽい役が決まらなくて、監督が三島ゆり子さんを口説きに行かれたんですね。その時の様子を三島さんは後年、「監

督の話は理屈っぽいばかりで、何言ってるのか、ちっともわかんなかった。でも、汗をびっしょりかいて、あの汗を見た断れなくなっちゃった」と話しておられたとか。

中島 たぶん、そうだったと

思います(笑)。それと、セツトをシンプルに様式化しようとして試みたのですが、当時の東映の美術の力量では難しく、中途半端になったのが残念でしたね。

## じつは、母を描きたかった 映画「序の舞」

上掛 文芸大作「序の舞」では、日本画家の上村松園(名取裕子)とその母親(岡田茉莉子)の関係を軸に据えるとともに、監督ご自身のお母さまの姿を重ね合わせて、母とはどういうのかを描こうとしたと、「演出メモ」に書かれていますね。

監督のお父さまは戦死され、お母さまが一生懸命働いて子どもを育てて、子どもに教育を受けさせることを重視してくれましたので、苦心して学費を捻出されたとありました。

中島 宮尾登美子さんの原作を読むと、お母さんが自分なりのすぎるものをつくって生きていく姿が強く浮かび上がってきたんですね。ほとくの母も、台所で鍋釜を磨きなが

ら、いろいろ考えていたのだろうと思います。ぼくらの年代はどうしてもマザコンみたいになってしまいますが、学生時代に仲の良かったヤツらは、たいてい父親がいなかったから、友だちの家に遊びに

行くと、お母さんが大事にしてくれるんです。うちの母もそうでした。それをいいことに、友だちの家をお互いによく行き来したものです。

上掛 母親というのは、いつの時代も子どもにとって大きな存在だということですね。松園の美人画は、一筋の髪の毛も丁寧に描かれているので、そこをいかに描くかにも

## 「京都国際映画祭」ならいではの 牧野省三特集

上掛 15もの撮影所があった京都市は「映画のまち」とされ、大秦界隈は「日本のハリウッド」と呼ばれていました。

中島 昨年の初めに「そういえば今年、牧野の90回忌だね」と言ってくれた人がいて、「あ

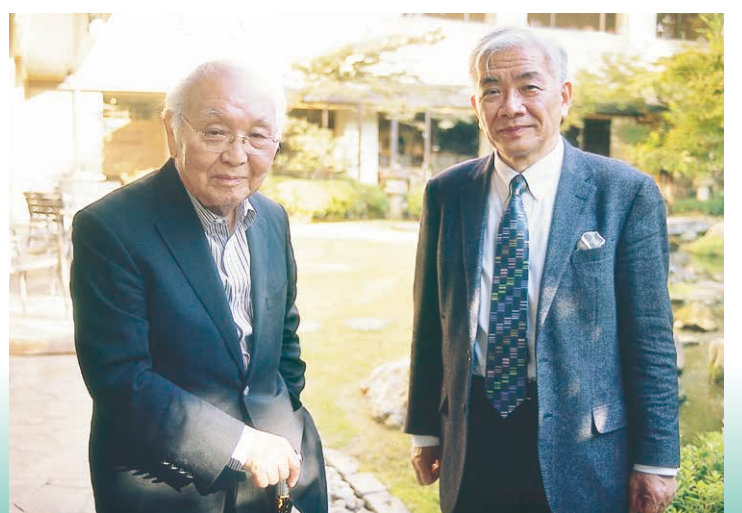
「京都市民映画祭」(のち京都映画祭)を引き継いだ「京都国際映画祭」(第6回)が2019年10月に開催されました。監督はこの映画祭の創設にも

尽力され、昨年は牧野省三特集を組まれましたね。

中島 昨年、牧野の90回忌だね」と言ってくれた人がいて、「ああ、そうだった。次は100回忌だと思っていたけど、100回忌には、おれたち、もういないよね。じゃ、90回忌

をやる」ということから、映画祭でも取り上げることにしました。

も「こんなにすごいとは思わなかった」とか「言葉も映像も古いけど、なんかジーンときた」と感想を述べてくれました。やっぱり牧野は見せ方がうまかったんだと思います。それと、牧野がとくに言葉や行動で残したものに、映画の本質を突いた部分がたくさんあります。たとえば小道具類は、すべて本物を集めさせて、その中から使える物は使いました。つまり、本物指向だったのです。





映画づくりのプロセスについても、「1スジ(脚本)、2ヌケ(撮影技術)、3ドウサ(演技・演出)」とか「いいシナリオからダメな映画はでき

るが、ダメなシナリオからいい映画はできっこない」という至言を残しました。一番に脚本を、二番目に映画技術を挙げた辺りが、映画の本質を非常に早くからつかんでいたことを示していて、やっぱり牧野省三は天才です。

**上掛** 父・省三の下で子役として4歳のころから映画の現場に親しんだというマキノ雅弘監督も、若手の育成に力を注がれたのですね。

としたのではないかと思えます。それと、自分で撮ったフィルムを編集していると、「このシーンは失敗だな。使えないな」と気づくことがあるんですね。他の監督だったら、そのシーンはすぐに切ってしまうけれども、「マキノの親父」は切らずにそのままぼくに見せて、ぼくが「すみません。そこ、外してください」と言うと、「そうか、わかったか。よし」と言っていて、切る。つまり、ぼくが自分の目でちゃんと見て判断するよ

うに仕向けたのです。そんなふうで育ててくれました。

### プロフィール 中島貞夫 (なかじま さだお)

映画監督

1934(昭和9)年、千葉県生まれ、東京大学卒業。1959(昭和34)年、東映へ入社しマキノ雅弘、沢島忠、田坂貞隆、今井正ら名監督の下で助監督を務める。1964(昭和39)年、「くノ一忍法」で監督デビュー以降、「893愚連隊」、「日本暗殺秘録」、「あゝ同期の桜」、「大奥物語」、「尼寺物語」、「木枯し紋次郎」、「日本の首領」シリーズ、「犬笛」、「真田幸村の謀略」、「人生劇場」、「序の舞」、「瀬降り物語」、「女帝春日局」、「極道の妻たち」シリーズなど多彩なジャンルの映画を世に送り出す。1987(昭和62)年からは大阪芸術大学教授として後進の育成に努め、2004(平成16)年からは京都国際映画祭の総合プロデューサーとして映画製作・普及に多大な貢献をする。京都市文化功労者、京都府文化功労賞など多くの受賞歴あり。昨年、20年ぶりの本格的時代劇映画「多十郎殉愛記」が話題となる。

## 京都の映画の歴史を伝えたい

**上掛** 監督は、京都にお住まいになられて約60年だそうですが、京都のまちをどのようにご覧になっていますか。

**中島** いつか東京へ帰ろうという意識で、京都に住む気はまったくなかったけれども気づいたら年月が経っていたという感じですね。現代劇やド

キュメンタリーの仕事は東京のほうがやりやすいし、事実、

東京と京都の生活が半々という時期もありましたが、いつの間にか京都に足が向くんです。京都は、来ると疲れが少し抜けるような気がして、ぼくにとつての位置付けが東京とは逆になりました。

**上掛** これからの京都の映画界や京都国際映画祭については、どのようなことを考えておられますか。

東京と京都の生活を、ちやんと形にして残し、伝えていくことが大事だと思っています。そうしないと、みんな忘れてしまいますから、撮影所跡など、京都の映画づくりに関連する歴史的な場所にある形として残したり、映画祭というお祭りを通じて伝えることが大切ですね。その意味で、京都国際映画祭は一定の役割を果たしているのではないかと思っています。

**上掛** 京都は映画にまつわる場所が多くあって、等持院の

牧野省三の銅像はじめ、下鴨の鴨川公園には「目玉の松ちゃん」こと尾上松之助(社会福祉事業にも貢献)の胸像、牧野省三が日本初の映画「本能寺合戦」の撮影をした真如堂には「京都映画誕生の碑」があります。実際の撮影でも、寺社だけでなく歴史的な景観そのものが役立っているでしょうし、伝統工芸の厚みが小道具や結髪など映画に寄与しているのではないのでしょうか。

**中島** それは本当に実感するところですよ。たとえば竹光(※)の銀箔にしても、京都に生まれ育った人は当たり前前にそこにあるように思われるかもしれません。ぼくのように外から来て、そういう技の存在を知っていくと、そのすごさが認識できる。だから、そういうこともぼくらがちゃんと伝えなきゃいけないことだと思っています。

**上掛** 私たち協同組合は「生活文化の向上」も活動の大きな柱にしていますので、映画は大切な生活文化のひとつだと考えます(「京都国際学生映画祭」も応援しています)。

昨年(2023)の4月に監督が脚本も書かれた最新作「多十郎殉愛記」(高良健吾、多部未華子)が公開され、時代劇の魅力が伝えたい作品にも期待が集まっています。本日は、楽しい時間をありがとうございました。





台風19号への対応

2019年10月、台風19号により、関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な豪雨災害となり、甚大な被害もたらされました。

関西広域連合の構成府県が、担当の被災県を決めて支援する取組みの一環で、京都府生協連も加盟する京都府災害ボランティアセンターは、福島県への災害ボランティア派遣を決定し、11月1日(金)から5回の派遣をおこないました。(2019年11月30日現在)

京都駅からのボランティアバスは、運行当日、京都府生協連の役職員が受付や誘導、見送りをしました。



無事を祈って出発を見送り

京都府総合防災訓練



救援物資輸送訓練

2019年9月1日(日)、長岡京市の村田機械株式会社総合グラウンドを主会場に開催されました。

直下型地震ならびに近年の集中豪雨等による水害の複合災害を想定して訓練をおこなうことで、府民の防災意識の高揚を図り、被害減少につなげることを目的に開催。

地震発生を受けて京都府生協連は午前8時45分に京都生協の洛西支部にて、高取淳専務理事を本部長に災害対策本部を立ち上げ、京都府から要請のあった救援物資などの資材を配送トラックに積み込み、訓練会場に向かいました。

京都府との間で締結している「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書(1997年締結)」にもとづき、JAグループ京都とともに物資の輸送・配布訓練に参加しました。



JAグループ京都とともに

生協からは地元の生協組合員19人(子ども10人含む)・役員8人、JAグループから11人がボランティアとして参加しました。



参加者で記念撮影

2019年度 関西広域応援訓練(図上訓練)に参加

2019年10月10日(木)、大規模災害時における応援・受援に関わる活動内容や手順の確認と課題の抽出をおこない、防災関係機関との連携強化を図ることを目的に、(※)関西災害時物資供給協議会を構成する関西広域連合による訓練が開催されました。

当日は、南海トラフ地震の発生により、三重県を中心に甚大な被害が発生するという想定のもと、三重県の調達担当者からの緊急物資依頼を電話・メールで対応する訓練でした。

京都府生協連の事務所内で、九鬼隆一事務局長が訓練に参加しました。

(※)関西災害時物資供給協議会 関西広域連合のもと、大規模災害時の実効性のある物資供給を実現するために、行政機関や民間団体、事業者等による連携・協力組織として、2017年1月12日(木)に設立され、京都府生協連も参画しています。

MCA無線(防災無線)訓練を実施

2019年8月22日(木)と、11月26日(火)に震度6強の地震が発生したものと想定して、日本生協連関西地連(大阪)と京都府生協連と会員生協間(京都生協)で実施しました。

発災時に非常用通信機器として設置しているMCA無線が正常に稼働できるか(送受信の電波状態・機器の不具合の有無など)について検証しました。

2020年1月16日(木)には、京都府生協連会員生協による相互連絡防災通信訓練を予定しています。

コープ御所南ビルで防災訓練

2019年9月26日(木)、午前8時より、コープ御所南ビルで火災が発生したという想定で、避難方法の確認をおこないました。

京都府生協連は役職員が訓練に参加しました。

2019年度京都消費者問題セミナー  
「うまい話には裏がある！」

（広告・表示の落とし穴について考えようPARTⅡ）開催

2019年10月16日（水）、京都経済センター16階会議室で開催され、60人が参加しました。

消費者被害の事例と対策について広く啓発し、適格消費者団体の認知をはかることを目的に毎年開催しており、今年も13回目。



公正取引委員会・井上雅人取引第二係長

京都府くらしの安心・安全月間事業として実施しました。主催は、京都府、NPO法人コンシューマーズ京都、適格消費者団体NPO法人京都消費者契約ネットワーク（KC CN）、適格消費者団体 特定適格消費者団体NPO法人消費者支援機構関西（KC's）、京都生協、京都府生協連で、京都市の後援事業。

公正取引委員会事務局近



KCCN事務局・森貞涼介弁護士

畿中国四国事務所取引課・井上雅人取引第二係長より「かっこいい商品選択を身につけよう 私たちが安くて良い商品を買うワケ」と題して講演がありました。



KC's・元山鉄朗事務局長

つづいて消費者支援機構関西・元山鉄朗事務局長より「消費者団体訴訟制度の概要」と題して報告があり、京都消費者契約ネットワーク事務局・森貞涼介弁護士から最近の活動紹介がありました。

2019年度京都府食の安心・安全意見交換会

2019年9月19日（木）、京都市中央食肉市場で開催されました。

京都府農林水産部農政課・清水辰也課長が開会あいさつ。京都市中央食肉市場で、牛の解体と「せり」のようすを見学しました。解体では、放血や内臓摘出から、冷蔵するまでの一連の流れが見学できま



「せり」の見学

した。京都府山城家畜保健衛生所防疫課・一星暁美課長が、「家畜保健衛生所の業務と家畜衛生をめぐる情勢」安心・安全な畜産物をお届けするために」を報告。「京都産和牛生産・流通の現状とブランド力強化の取組み状況」について、京都府農林水産部畜産課・平野幹典主幹兼係長が報告。「京都市中央食肉市場の業務」について、京都市中央食肉市場業務課・林兵明市場活性化担当係長から報告があり、

意見交換しました。NPO法人京都消費生活有資格者の会、NPO法人使い捨て時代を考える会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から11人が参加しました。



◆ ◆ ◆

2019年10月24日（木）、京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所で「茶業研究所の取組みについて」をテーマに、開催されました。

茶業研究所は、「お茶の京都」のターゲットイヤーである2017年度にあわせて、従来担ってきた「宇治茶の高品質化、品種育成」の役割に加え、「新時代の宇治茶イノベーションの拠点」、「次代を担う人材育成の拠点」としての機能を強化するリニューアル工事を、2018年1月に完成しています。京都府農林水産部農政課・清水辰也課長が開会のあいさつ。農林水産技術センター茶

業研究所・神田真帆所長から茶業研究所の概況説明の後、施設の見学をしました。「宇治茶振興の取組み」について、京都府農林水産部農政課・堤保三主幹兼係長から報告があり、つづいて「安心安全な宇治茶づくり」について、茶業研究所・岡留和伸主任研究員からの報告のあと、意見交換しました。



京都府農林水産部農政課・清水辰也課長

NPO法人京都消費生活有資格者の会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から6人が参加しました。



研究設備や製造ラインを見学しました



## 「ヒバクシャ署名京都の会」 交流会

2019年11月2日(土)、  
京都経済センター会議室で開  
催しました。主催はヒバクシ  
ヤ国際署名を大きくひろげる  
京都の会(略称・ヒバクシャ  
署名京都の会)。

京都原水爆被災者懇談会・  
花垣ルミ世話人代表よりあい  
さつがあり、原水爆禁止京都  
協議会・小杉功事務局長より  
「京都の会結成2年間を振り  
返って」、京都府立大学・峯  
裕紀生協学生委員、京都生協・  
川村幸子副理事長よりそれぞ  
れ取組みの報告がありました。



京都の会、結成の2年間を振り返りました

長崎大学核兵器廃絶研究セ  
ンター・中村桂子准教授にも  
ご参加いただき、意見交換を  
おこないました。30人が参加

しました。会に先立ち、京都  
生協主催で「核兵器のない世  
界をめざして」をテーマに、  
学習会が開催され、同・中村  
桂子准教授が講演。ヒバクシ  
ヤ署名京都の会が協賛し、70  
人が参加しました。



長崎大学・中村桂子准教授が講演

## 「ヒバクシャ署名京都の会」 街頭宣伝署名

2019年9月28日(土)、  
国連が定めた「核兵器廃絶国  
際デー」にあわせて、河原町  
三条で街頭宣伝署名をしまし  
た。21人が参加し、156筆  
が集まりました。



署名をお願いします

## 京都大学生協 無人店舗・ セルフレジ見学

2019年8月22日(木)、  
京都大学桂キャンパス内の生  
協店舗を訪問し、無人店舗・  
セルフレジの見学をしました。



セルフレジで買い物

会員生協の役員など13人  
が参加しました。京都大学生  
協では2019年2月からセ  
ルフレジの運用を開始し、6  
月からは時間帯による無人で  
の営業実験を開始していま  
す。事業的にも売上増に加え、  
利用者からは「簡単」「便利」  
との声も寄せられています。  
との声も寄せられています。  
運営側でも時短・手間の軽減  
等のメリットがあるとのこと。  
京都大学生協・松浦順三常  
務理事より説明をいただきました。



京都大学生協・  
松浦順三常務理事(右)

## 第19回 京都府協同組合 役員体験・交流学校

2019年9月11日(水)  
12日(木)に開催され、29  
人が参加しました。

主催は京都府協同組合連絡  
協議会。京都府の協同組合(農  
協、漁協、森林組合、生協)  
で働く役員員の教育と育成を  
目的とし、連携、課題を学び、  
認識を深めあう機会として毎  
年開催しています。



搾乳体験に汗だく

菜の流通及び京のブランド産  
品についてのレクチャーを受  
けました。2日間を通して京  
都府の農産物の生産や流通を  
学びました。参加者からは「普  
段なかなか見ることができな  
い部分を見学させていただけ  
き、大変勉強になりました」  
「いつも何気なく口にしてい  
るものも製造や流通過程を知  
ることでより商品に対して身  
近に感じた。生産者の想いを  
知って手間暇かけて作られた  
京都のいいものをもっと多く  
の方に知ってもらいたいと思  
った。今後も協同組合のつな  
がりを大事にしていきたい」  
などの感想が寄せられました。

今回はJ A京都中央会が企  
画を担当し、「京都の農産物の  
生産・流通を学ぶ」をテーマ  
に開催しました。1日目は雪  
印メグミルク京都工場でJ A  
京都中央会・中川和弘参事が  
あいさつ、総務課の樋口隆弘  
課長よりオリエンテーション  
がありました。工場見学の後、  
酪農生産現場の「谷牧場」を  
訪問し、見学しました。2日  
目は京都市中央卸売市場へ移  
動し、卸売市場の見学と京野



野菜の「せり」を見学



第31回近畿地区生協・行政合同会議

2019年8月28日(水)、奈良ロイヤルホテルで、「安心してくらせる地域社会づくりをめざして」誰一人取り残さない社会の実現に向けて」をテーマに開催され、42人が参加しました。主催は近畿地区生協府県連協議会。

奈良県生協連・山本弘志専務理事が司会を担当。兵庫県生協連(近畿地区生協府県連協議会代表)・木田克也会長理事、開催地行政から奈良県くらし創造部・榊田斉志部長が開催にあたってのあいさつをのべました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室・石川智己生協指導専門官から、2018年度消費生活協同組合の(行政との災害時の締結状況など)実態調査結果報告がありました。



厚生労働省・石川智己生協指導専門官



大阪大学大学院・渥美公秀教授

つぎに日本生協連渉外広報本部・伊藤治郎本部長より、持続可能な社会の実現をめざした全国の生協の社会的取組みについて報告がありました。

つづいて大阪大学大学院人間科学研究科・渥美公秀教授から、「連携と協働でつくる災害に強いまちづくり」をテーマに特別講演があり、この間の災害現場の体験から学んだボランティア活動から高齢者、障がい者、外国人、子ども、女性が真の主役になるように地域で連携し、協働でまちづくりをするべきであるとの提起がありました。

近畿地区の行政・団体・生協から、活動報告として、「コープエシカル消費取組み」滋賀県総合企画部県民活動生活課、「協同組合間協同による社会的課題解決の実践」虹の仲間づくりカレッジ」兵庫県生協連、「一般社団法人かわかみらいふ地域活性化の取組み」奈良県川上村地域振興課、適格消費者団体特定

適格消費者団体NPO法人消費者支援機構関西(KCS)より活動報告があり、意見交換しました。京都府生協連からは上掛利博会長理事、高取淳専務理事、九鬼隆一事務局長が出席しました。



2019年度 近畿農政局消費者団体等との意見交換会及び工場見学

2019年8月7日(水)、カルビー株式会社湖南工場、開催されました。主催は農林水産省近畿農政局。

消費者・企業・行政がともに、災害時に備えた食品の家庭備蓄への理解を深め、消費者の信頼の確保を図ることを目的としたもので、消費者団体及び(※)ACAP(公益社団法人消費者関連専門家会議)から54人の参加がありました。

カルビー株式会社湖南工場・内菌正義工場長から工場の概要説明があり、ビデオ鑑賞後、工場内の製造ラインで商品の製造工程の説明がありました。

農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室・測上恵子食料安全保障専門官から、「災害時に備えて食品の家庭備蓄を始めよう」乳幼児や高齢者向けの情報も紹介し、「テーマに、災害時に備えた食品の家庭備蓄について、その必要性や収納アドバイス等の情報提供がありました。家庭用備蓄食品の展示もありました。

つづいて、ACAP西日本支部啓発・交流部会・上野理恵執行委員からACAP会員企業が製造している備蓄食品や取組み等について、説明と展示があり、意見交換しました。

意見交換終了時には、備蓄食品の試食の提供がありました。



意見交換会場の様子

京都府生協連からは、高田艶子生協活動推進専門委員と九鬼隆一事務局長、川端浩子事務局担当が出席しました。

(※)ACAPとは、企業や団体の消費者関連部門の責任者、担当者で組織し、消費者・企業・行政相互の信頼確保を図るため、調査・研修・啓発活動に取り組んでいる団体。

京都府民環境部との懇談会

2019年10月29日(火)、コープ御所南ビル4階会議室で開催しました。

京都府からは府民環境部・大谷学部長、田中寿直消費生活安全センター長、藤沢智美課長補佐(調査・指導担当)、門田佳恵課長補佐(企画・啓発担当)、濱田佳史専門幹(調査・指導担当)が出席。

京都府生協連からは上掛利博会長理事、畑忠男副会長理事(京都生協理事長)、高取淳専務理事、本多浩常任理事(京都府庁生協専務理事)、田中とみ子常任理事(乙訓医療



京都府府民環境部・大谷学部長



生協専務理事）、是澤朗生協活動推進専門委員（大学生協事業連合関西北陸地区会員支援部次長）のほか、事務局が出席しました。

京都府から「京都府の消費生活行政」について報告があり、生協からは2019年度のおもな活動や課題について報告し、意見交換しました。



活発に意見交換

## 2019産直フォーラム in 京都

2019年11月1日（金）、京都駅前のメルパルク京都で、「こんにちにはもーちゃん」大山乳業農協・鳥取県畜産農協・生産者の取組みを知っていた「だくたために」をテーマに開催されました。主催はCO-OP牛乳産直交流協会。京都生協、大学生協、京都協同食品プロダクト、鳥取県生協、大山乳業農協、鳥取県畜産農協、コープしが、京都府生協



吉田裕美さんが報告

連の役員や組合員など190人が参加しました。

大山乳業農協の生産者・吉田裕美さんより「吉田さん家の1日&絵本『こんにちにはもーちゃん』発刊の思い」、大山乳業農協・堀雅之販売部部長より「白バラ認証制度の説明」、(株)美敷牧場職員・加嶋央嗣さんより「鳥取県畜産農協からの取組み報告」、鳥取県生協・向由美子副理事長より「鳥取県生協（組合員）からの報告」、大学生協学生事務局・近藤元貴さんより「大学生協（学生）からの報告」、コープしが彦根センター組合員担当・小川豊さんより「コープしが（職員）からの報告」がありました。

京都府生協連からは、高取淳専務理事のほか、生協活動推進専門委員と事務局が参加しました。

## 食品に関するリスクコミュニケーション「これからの考える〜食品中の放射性物質〜」

2019年11月22日（金）、京都市国際交流会館で開催されました。主催は消費者庁、内閣府食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省で、京都府、京都市が共催。約60人が参加しました。

「食品中の放射性物質」について、福島県の原子力発電所の事故から8年以上が経過した現在においても風評による被害が払拭できていないことから、正確な情報提供・意見交換を通じて消費者理解の増進を図る事を目的に開催されました。

産業医科大学産業保健学部 産業・地域看護学・櫻田尚樹教授から「放射線の基礎知識と食品中の放射性物質」をテーマに基調講演がありました。放射線・放射能の基礎知識



京都府生協連・川村幸子理事も登壇（右から2人目）

や、飲食品のモニタリングの実際、放射線による健康影響について講演されました。つづいて、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課・森下拓哉係長と農林水産省消費・安全局食品安全政策課・渡邊美鈴課長補佐から「食品中の放射性物質の対策と現状について」の情報提供がありました。

その後、サイエンスコミュニケーション・すずきまどか氏がコーディネーターをつとめ、生産者や事業者、行政担当者などとパネルディスカッションがおこなわれました。パネリストには、消費者の代表として、京都府生協連・川村幸子理事（京都生協副理事長）も登壇しました。

## 2019 京都環境フェスティバル

2019年12月7日（土）8日（日）、京都府総合見本市会館（パルスプラザ）で開催されました。

京都府内の各地域で活躍するNPOや学校、企業などが出展し、環境について楽しみながら学び考えることができ、1990年から実施されています。開催30周年の今年のテーマは「環境と府民のくらし〜くらしの中で環境にや



多くの参加者でにぎわいました

さしい取組みを選択しませぬか」。フェスティバル開催当初の原点に立ちかえり、府民がくらしを見つめ直し、くらしの中で環境にやさしい取組みを選択することを考えるきっかけとなるよう、テーマ設定されました。

京都府生協連は、会員生協の京都生協とともに、環境やSDGs、エシカルの取組みについての展示や、取組みに関するクイズなどで参加しました。

京都府生協連ブースには1000人以上が立ち寄りられました。



ウルトラマンコスモスと環境クイズに挑戦

京都の生協 理事長懇談会

2019年9月18日(水)、  
コープ御所南ビル会議室で開  
催し、上掛利博会長理事が開  
会のあいさつをしました。

同志社大学商学部・青木真  
美教授(同志社生協理事長)  
より「社会問題としてのモビ  
リティ生協は何ができるの  
か？」をテーマに講演をいた  
だきました。生協の強みは組  
合員(人)がいること。生協  
のインフラを活用すれば、モ  
ビリティに障害があるケー  
スを、さまざまな側面から解  
消できると話されました。

その後、各会員生協から  
2019年度の活動課題等につ  
いて報告があり、懇談しま  
した。

京都府生協連・本多浩常任  
理事が閉会のあいさつをし  
ました。

9会員生協から理事長・副  
理事長・専務理事・常務理事  
など18人が出席しました。



同志社大学・  
青木真美教授

京都府生協連  
理事・監事研修会



日本生協連・  
宮部好広部長

2019年8月21日(水)、  
コープ御所南ビル4階会議室  
で開催しました。

生協法改正以降、理事の職  
務と責任が明確にされると共  
に、理事、監事の役割がま  
ます重視されるようになって  
きており、生協法の知識や監  
事の権限と職務、監事は理事  
の何を監査するのかなど、基  
礎的な知識について学ぶこと  
を目的に開催しました。

はじめに、京都府府民環境  
部消費生活安全センター・濱  
田佳史専門幹から「生協検査  
における特徴的な指摘事項や  
留意点」について報告があり  
ました。

つぎに、日本生協連総合マ  
ネジメント本部法務部・宮部  
好広部長を講師に、1部は生  
協における役員(理事・監事)  
の職務と責任について講義。  
生協の機関運営や法的ルー

ル、非常勤役員の役割など、  
生協の基礎的知識を学びまし  
た。2部は監事監査の基本と  
実務のポイントをテーマに、  
生協がおこなう幅広い監査対  
象に対しての監事監査などを  
学びました。

会員生協の役職員40人が参  
加しました。



多くの参加者で会場がいっぱいに

京都労働者福祉協議会代表者  
会議

2019年12月6日(金)、  
ラポール京都大ホールで開催  
されました。

京都労働者福祉協議会・廣  
岡和晃会長が開会あいさつを  
おこない、つづいて京都労働  
者福祉協議会の活動と課題に  
ついて報告。つぎに、きょう  
とライフサポートセンターの  
現状と課題について報告があ  
りました。近畿労働金庫京都



京都府生協連・  
上掛利博会長理事

老いる前の整理はじめます  
転ばぬ先の講演会

2019年10月22日(火・  
祝)、ひと・まち交流館で開  
催されました。主催はNPO  
法人コンシューマーズ京都  
で、京都府生協連などが後援  
しました。

NPO法人コンシューマー  
ズ京都では「老いる前の整理  
はじめます!」というフォト  
ブックを出版。老いる前のす  
べての年代の人が直面する課  
題である「家のなかの整理」  
をとらえたフォトブックで、  
今回、執筆者が登壇し、講演  
会が開かれ、140人が参加  
しました。

「老いる前の整理はじめま  
しょう!」大阪健康福祉短期  
大学・川口啓子教授、「孤立  
死の現場から」遺品整理専門  
業者メモリーズ株式会社・横  
尾将臣代表、「タイプ別ゴミ  
屋敷診断チャート」三愛合同  
会社社会福祉士事務所・奥谷  
和隆代表、「自治体のゴミ出  
し支援」NPO法人コンシュー  
マーズ京都・西山尚幸前事  
務局長が登壇。

整理してこそ、捨ててこそ、  
快適な暮らしが得られるとい  
うような、既存の整理ブーム  
とは違った視点からのアプロ  
ーチで、くらし方を考える機  
会となる講演会でした。





# 京都府生協連 第31回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

## テーマ 「普通」の若者と(大学)生協の接点



京都府立大学・朝田佳尚准教授

2019年7月16日(火)、コープ御所南ビル会議室で開催し、役員38人が参加しました。今回(31回)のKSKでは「普通」の若者と(大学)生協の接点をテーマに、京都府立大学の公共政策学部朝田佳尚准教授より問題提起があり、事例報告ではこれからの生協運動を担う世代から話題提供のあと、意見交換しました。



京都府生協連・中森一朗常任理事

上掛利博会長理事が開会のあいさつをおこない、中森一朗常任理事がコーディネーターをつとめました。

朝田佳尚准教授からは「京

都の大学生は生協に対してどのような接点をもっているのか」また「その背景にはどのような学生の意識がひかえているのか」を切り口に、京都の大学(院)に在学中の7人に聞き取りをおこなった内容の講演がありました。

事例報告では、京都府立大学生協学生委員・峯裕紀さんより「学生委員会の取組み(原爆展参加を通して)」、京都生協人事教育部・向當朝美



京都府立大学・峯裕紀さん

さんより「宅配担当者の経験を通して現在の仕事を語る」、京都大学生協吉田シヨップ・西川彩さんより「自分自身も

大学生活を支える仕事があった」と題し、それぞれが話題を提供した後に、パネルディスカッションをおこないました。

参加者からは「大学生協の現状を初めて知ることができました」「朝田先生の講演は



京都生協・向當朝美さん

聴きたいことが聴けたと感じられるものでした。聞き取りをされた学生のみなさんの、生の声はとても興味深い内容でした。学生に限らず組合員外の多くの方も同じ感覚なのだと思えます。3人の事例報告も希望を感じるものでした。3人からまた輪が広がっていくことを確信しました」「朝田先生のお話はとても興味深く、接点はあるが意識化されていないということに気づかされました。これからの事業継続のために大きなヒントをいただいた気がします」など多くの感想が寄せられました。



京都大学生協・西川彩さん



功労者のみなさん(前列)と記念写真

**京都の生協活動功労者表彰式**  
2019年11月6日(水)、レストラン「おおたや」で開催しました。京都府生協連の表彰制度にもとづき毎年おこなっているもので、表彰の対象となった方は、2018年8月1日から2019年7月31日までのあいだに退任した役員のうち、①役員在任期間が2期以上または2年以上あった方、②特別に功労があったと認められる方、です。  
2019年は各会員生協から8人が推薦され、表彰されました。  
上掛利博会長理事が感謝状を贈りました。表彰式に出席された功労者は3人で、該当する生協役員が同席しました。

# 京都府生協連 第32回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

## 食品ロスの削減から 日常生活の質や社会の在り方を考える

上掛利博会長理事が開会のあいさつをおこない、コーデイナーターをつとめました。  
京都生協CSR推進室・上羽祐子マネジャーより「京都生協の食品ロス削減の取り組みについて」、京都大学生協・



京都生協・  
上羽祐子マネジャー

2019年10月15日(火)、コープ御所南ビル会議室で開催し、役員24人が参加しました。  
今年5月に食品ロス削減推進法が成立し、10月1日(火)から施行されました。今回は「食品ロス削減」をテーマに、現況や課題について、京都府食品ロス削減府民会議の山川肇座長(京都府立大学大学院教授)をお招きし、考えあうことを目的に開催しました。



京都府食品ロス削減府民  
会議・山川肇座長



NPO法人コンシューマーズ  
京都・溝内啓介事務局長

参加者からは「食品リサイクル法と食品ロス削減促進法との違いや関連は、もう少し自分で勉強してみようと思いました。くらしの中や事業の現場でできることからチャレンジしてみることが、大事だと思います」などの感想が寄せられました。



京都大学生協・  
松浦順三常務理事

松浦順三常務理事より「京都大学生協(購買部門)と食品ロス」、NPO法人コンシューマーズ京都・溝内啓介事務局長より「食品ロス削減に向けた啓発活動」と題して報告

### 謹賀新年

旧年中はご支援・ご協力を賜り、ありがとうございました  
本年も、みなさま方とごいっしょに、食の安全・くらしの安心をめざし、邁進してまいります  
どうぞよろしくお願ひ申し上げます

二〇二〇年 一月一日

京都府生活協同組合連合会  
会長理事 上掛利博

### おもな行事のお知らせ

京都府生協連と各会員生協の相互連絡通信訓練

日時：2020年1月16日(木) 8:45～10:00

第32回 京都の生協活動を豊かに発展させる協議会(KSK)

日時：2020年1月21日(火)  
午後1:30～午後4:00(予定)

会場：コープ御所南ビル4階会議室

テーマ：「豪雨や台風の災害対応から学ぶ」(広島生の協の取組み)

2019年度きょうと食の安心・安全フォーラム

日時：2020年2月10日(月) 13:30～15:30

会場：京都経済センター6階(6-C)

テーマ：「考える新しい食の安心・安全 伝わる京の食」